

赤 城 山 観 光 情 報 紙

A K A G I F T

SPRING / SUMMER 2020



特集
森を知って、森に親しむ。

花見ヶ原森林公園キャンプ場を拠点に、
赤城山最高峰、黒檜山山頂までを歩く。

SUBARUふれあいの森赤城で憩う

あみぎこ女塾
木のぬくもりに包まれて家庭的なイタリアン。ろぐてい

赤城山環境ガイドボランティア SlowWalk

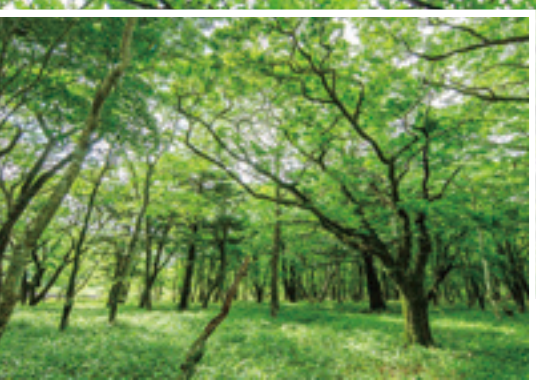


森を知って、森に親しむ。

赤城山にはいくつもの森や林が広がっている。
こんもりと生い茂った森には多種多様な動植物が生息し、野鳥の楽園でもあるし、白樺樹林帯など人工的に手入れをされている林は、美しい景観を作り出している。
遠くから眺めているだけでは決して分からない森林という非常に大きなフィールドを、AKAGIFTの読者の皆さんに少しでも身近に感じてもらうために、今回の特集では森林で働く方へのインタビューや山頂を目指してのトレッキングを通して赤城の森林の魅力を探った。



赤城大沼のミズナラ

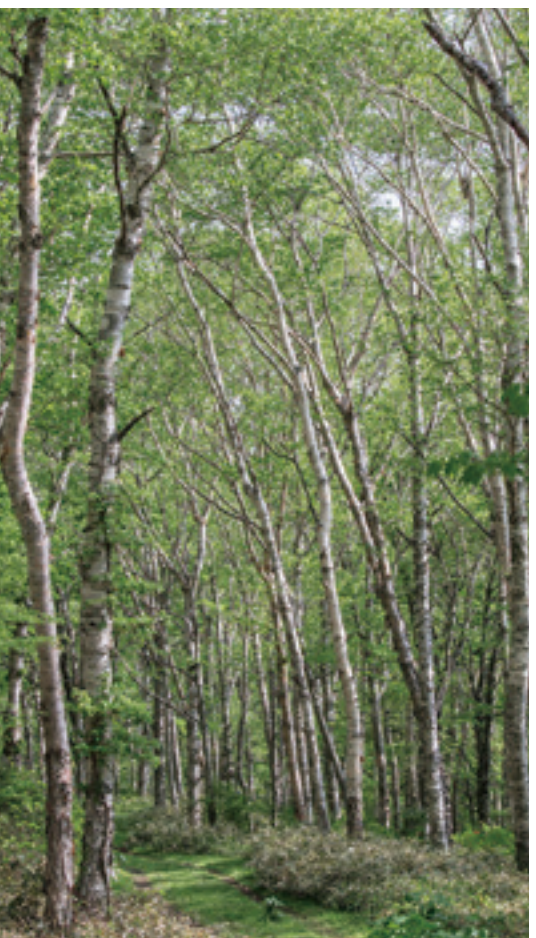


覚満淵遊歩道のミズナラ

知っておきたい、赤城の森のこと。

約50万年から20万年前の火山活動により火山灰土壌におおわれている赤城山。標高によって、さまざまな木々が育っている。まず、ミズナラ。赤城山中腹より標高が高い場所に多く生える。山頂域には樹齢200年を超えるものや前橋市赤城少年自然の家から北方向にはミズナラの巨径木の群集が広がっている。また、小沼の南側にあるミズナラ林は「オトギの森」として知られている。白樺牧場とその周辺は、「白樺樹林帯」と呼ばれ、白い樹皮が美しい景観を作り出すシラカンバとダケカンバの林がある。シラカンバは植林されたもので、自然に繁茂して樹皮がやや褐色がかった白色をしているのがダケカンバだ。ミズナラやダケカンバに混在して自生しているのが、カエデ類。赤城山頂域には21種類ものカエデが見られ、代表的なものとしてオオイタヤメイゲツ、イロハモミジ、オオモミジなどがある。5月下旬の芽吹きにはじまり紅葉が終わる10月下旬まで美しい色彩を見せてくれる。
赤城山の標高800～1000m付近にはクリの

林が多く見られる。箕輪地区にはクリの巨径木が見られ、中でも姫百合駐車場から徒歩5分の「くりの広場」にある「赤城栗太郎」の存在感には惹きつけられるものがある。
標高800m以下のすそ野にはコナラの林が広がる。コナラは自然林を伐採した後に生える特徴をもっており、昔は薪炭材として利用されてきた。赤城の特産でもあるしいたけの原木としても重宝されてきた。
このように、山頂から山麓にかけてはミズナラを中心とした落葉広葉樹が広がっているが、旧大洞赤城神社境内にはウラジロモミヤクロベといった針葉樹が見られる。平地にある神社の境内にはスギが植えられていることが多いが、寒冷のためスギが育たず、それらを植えたと考えられている。
季節ごとに足を運びたいくなるお気に入りの林、パワースポットとなるような大迫力の巨径木に出合えるかもしれない。さあ、赤城山の森へ出かけてみよう。



赤城白樺牧場内



実り人プロフィール
#23 赤城南麓森林組合 事業課 課長 石塚 征人さん
Masato Ishiduka
一児の父。前職は経理を担当。バイクが好き。最近では空手道場に通い、地元の子ども達と一緒に習う。

人の手を入れてこそ、森は美しくなる。

“赤城山ブランド”として綺麗な山で観光に来てくれたお客様をお迎えしたいと森づくりに取り組んでいるのが私たち赤城南麓森林組合です。人工林は手つかずの自然のままでは決して安全とは言えません。人の手を入れ整えてこそ見栄えも良くなり、利用しやすくなります。赤城山はその土地の性質上もあり、当時は木材としても需要が高く、適地であったマツが植えられていました。平成の時代になってからマツクイムシによって松枯れの被害を受けるようになり、標高600m以下はほぼ全滅。温暖化の影響で標高1000m近くでも松枯れに。『SUBARUふれあいの森赤城』では樹齢200年ほどのマツが枯れてしまいました。そのまま放置するとどうなると思いますか？ササが生えてきて見通しが悪くなり、見通しが悪くなると今度は獣害が増えてしまいます。獣害は畑を荒らすだけでなく、植林にも影響を及ぼします。たとえば10人で1日2000本という数を懸命に植えても、一夜にして野生のイノシシやシカなどの獣害に遭ってしまうことも。このような悪循環が生まれます。

根気と工夫が必要な仕事ですが、綺麗な森にして後世に受け継いでいくために企業との協力や子どもたちに木育を伝えながら、原林化し始めている広葉樹の可能性や、自生を生かす森づくりなどこの土地「南麓」に合わせた森・山のデザインを行うことが大切だと考え、森づくりに取り組んでいます。

赤城南麓森林組合
前橋市滝窪町1335-28
TEL.027-283-5067



赤城白樺牧場のシラカンバなど



赤城栗太郎



旧赤城神社跡のウラジロモミヤクロベ

多岐にわたる、森にまつわる仕事。



私たち、わたらせ森林組合は、植え付けなどを行う造林班と、コンボやチェーンソーなどを使って間伐、除伐などをすすめる林産班などに分かれて年間で計画的に桐生市黒保根町やみどり市東町の山林に入ります。このあたりの山の特徴としては、山頂付近がマツ、中間がヒノキ、土地が肥えている部分に主にスギが植えられています。私たち

の仕事は山に入るだけではありません。関連施設である地域材加工センターで、製材品やペレットなどを販売しています。特にペレットは二酸化炭素排出量の少ないエコ燃料なので、宿泊施設などに年間300tほど卸しています。一般のお客様にもお越しいただければリーズナブルに販売しています。
年に一回、花見ヶ原森林公園キャンプ場のハイキングコースや黒檜山山頂までの登山道、梨木～新里間の関東ふれあいの道といわれる登山コースの整備を、わたらせ森林組合のメンバー4、5人でを行っています。下草刈りをしたり、倒木を取り除いたり、皆さんができるだけ安全に山を楽しむために大切な仕事のひとつです。
また、一般のお客様との一番の接点は、毎年秋に開催されるイベントです。桐生市街地にある新川公園で「わたらせ森と木のまつり」は、丸太切り体験や、椅子づくり、ウッドクラフト、積み木遊びなどを行います。一日たっぷり木のぬくもりに触れて、森の恵みを感じることができる内容で、家族みんなで楽しんでいただきたいと思います。



実り人プロフィール
#24 わたらせ森林組合 事業課長 小林 恵介さん
Keisuke Kobayashi
黒保根町出身。農林大学校卒。黒保根の実家は山を所有しており、林業への関心がもともと高かった。

わたらせ森林組合
みどり市東町花輪237
TEL.0277-97-2126

花見ヶ原森林公園キャンプ場を拠点に、 赤城山最高峰、黒檜山山頂までを歩く。

赤城山の主峰黒檜山(1828m)へは大沼湖畔の登山口からアクセスするルートがメジャーだが、赤城山東麓に位置する桐生市黒保根町にある花見ヶ原森林公園キャンプ場から黒檜山山頂まで関東ふれあいの道と呼ばれる登山道から行くことができる。ところどころに残雪が見られる時季に編集委員数名で取材。ルート内の見所のひとつであるツツジ街道をはじめ、おすすめスポットや楽しみ方をレポートする。比較的長いコースではあるが、午前中にスタートすれば、もちろん日帰り可能。通常4月下旬から開園するキャンプ場の設備も充実しているので、連休や夏休みなどロングバケーションを使って、ぜひじっくり満喫してほしい。

③ ピンクリボンの目印も多く、分かりやすく、登りやすい。ツツジの道というその名の通りツツジの木がかなりたくさんあり、開花時期にはかなり見応えがあるルートになること間違いなし。



ヤマツツジ



⑥ 山頂前、休憩がてらお昼。この日は寒かったので、野菜たっぷりうどんで暖をとる。



「赤城のツツジ」という案内板を発見。



至福のコーヒータイム! この一杯がしみる!



② 時間にゆとりがあれば、30分から1時間で一度休憩を挟むのもGOOD! 片道3時間近いコース、のんびり行きたい。



④ ゴツゴツした岩場は慎重に。苔の表情とあいまって写真映えるスポットもあり。

⑤ 木道が整備されていて、歩きやすい快適なコースに出た。



ベニサラサドウダン

⑦ 黒檜山山頂手前付近は見晴らし最高! 小沼のブルーと、地蔵岳、関東平野、遠くの山並みに歓声が。



コースタイムは無雪期の一般ハイカーを対象。無理のない登山計画をお立てください。冬期は、一部トイレ、赤城山総合観光案内所は閉所されます。ご注意ください。



⑧ 赤城山最高峰黒檜山、登頂成功! 休憩を含め、約3時間半かけて登頂しました。記念にパチリ。大沼から登るコースとはまた別の感動が押し寄せた。



黒檜大神が祀られている山頂付近



アズマシャクナゲ

① スタート地点は比較的ゆるやかで、徐々にペースをあげることができる。



花見ヶ原森林公園キャンプ場は、黒檜山登山へのベースキャンプとして利用するのも◎。場内を一周するコースもあるので、ハイカーはもちろん、ファミリーや初心者でも十分楽しめる。



アスレチック遊具もあるよ



花見ヶ原森林公園キャンプ場

- 管理費(日帰り・宿泊同料金)
大人(中学生以上) 1人200円
小人(3歳以上) 1人100円
- 6人用バンガロー(15棟) 1棟1泊5,230円
※寝具代別途1人410円
チェックイン15:00/チェックアウト10:00
- テントサイト(40張) 1張830円
チェックイン14:00/チェックアウト10:00
そのほかバーベキュー施設、シャワー・食堂施設あり。



詳しくはコチラ!

桐生市黒保根町下田沢赤城南面国有林内
花見ヶ原森林公園管理棟
TEL.0277-96-3131(4月下旬～9月末開園)

※状況により開園時間等、変更の可能性がありますので施設ご利用の際はお問い合わせください。

武尊山、谷川連峰、燧ヶ岳、日光白根山、至仏山、浅間山の展望が広がる。天気がいよい日は富士山も。





地蔵岳を間近に望める吊り橋。



広々とした木工室。



たくさんのヤドリギ。
この実を食べにレンジャクが集まる。



イメージを膨らませて作品を作ろう



ママと一緒にガルーガンも安心

散策マップを片手に 森を歩いてみよう。

新緑・ツツジ、紅葉が見頃を迎える登山シーズンは、平日でも1000人を超える人が利用する姫百合駐車場。荒山や鍋割山への登山もちろん楽しみのひとつだが、そこから一本脇道を行くと「SUBARUふれあいの森 赤城」の園内へとつながっている。

拠点となるのは、「あかぎ木の家」だ。1階には木工体験などができる広々とした創作室、2階には木製ジャングルジムやブランコ、そして展示スペースがあり、いろいろな角度から木や森に親しめる。そのほか、季節ごとに様々な体験イベントが年間企画されている。

ここを訪れたらぜひ見つけてもらいたいのは、木の家の管理事務所の窓際に設置された巣箱だ。ヤマガラ、シジュウカラ、コガラがエサをついばんだり、枝にとまっては飛んで遊んでいる。さえずりが耳に心地良い。

ベテラン管理人の一人である渡邊さんは「冬の間は、エサを出してあげるんです。好物はひま



実行プロフィール #25 あかぎ木の家管理人 春原 完矢さん Kanya Sonohara	#26 農林大学校 田部井 慎太さん Shinta Tabei	#27 群馬県森林組合連合会 清水 まり子さん Mariko Shimizu	#28 あかぎ木の家管理人 渡邊 勝さん Masaru Watanabe
---	--	---	---

わりの種。でも、暖かくなってエサとなる虫がいる季節になると、虫のほうがおいしいでしょうね、エサを食べにこなくなるんですよ」と言う。初夏から紅葉の季節まで、「SUBARUふれあいの森 赤城」は、野鳥たちが最も賑やかになる。季節にかかわらずこの森に棲んでいるのはメジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、ヒガラ、コガラ、ゴジュウカラ、キセキレイ、ウグイス、ホオジロ、モズ、コゲラ、トビ、オオタカなど約30種類、それに南から繁殖のために日本に渡ってくる夏鳥のツバメやオオルリ、キビタキ、カッコウなど約10種類ほどが加わるためだ。在職して4年の管

理人の春原さんが森を案内しながら「1月から2月にはたくさんのレンジャクが川の水を飲み、岩場にやってきます。その姿を写真におさめようと、カメラを構える人もたくさん」と教えてくれた。園内には赤城白川という一級河川が流れている。川底が見えるほど水が清らかで、沢ガニも多く生息しているとのこと。園内には、トンボの池、カブトムシの森と名付けられた箇所もあって、散策路を森林浴するだけでなく、自然観察にはもってこいの美しい森林である。

「このあたりは猛暑でも30度いったことはないから涼しくて過ごしやすい」とベテラン管理人さん達のお墨付きだ。

屋内も屋外も楽しい施設。

アウトドアを楽しむ人口が増加し、キャンプが再び脚光を浴びる時代になった。ふれあいの森赤城でも、バーベキューや宿泊できる施設が完備されている。バーベキューはもちろん予約は必要だが、無料で楽しめるし、宿泊施設はバンガロー、備え付けのテントサイト共にリーズナブルに利用できる。それぞれの棟が木々の間を点在するように建てられていたが、このほど、再整備され、随分と見通しが良くなったようだ。雨が降ったら、じっくり木工製作に没頭するのもいいだろう。本棚や巣箱など、なんと22種類もの設計図が用意されているほか、幼児でも十分に手軽に楽しめるクラフト体験もある。管理人の渡邊さんは、「製作の材料になりそうな枝や木の実など森を歩いて集めておきます。貴重なカラマツをはじめいろいろな種類の松ぼっくりなどを傷のない綺麗な状態でね」と教えてくれた。この管理人の皆さんは、森を知り尽くしており、「あかぎの森の住人」と言っても過言ではない。気軽に話しかけてみよう。ガイドブックや図鑑だけでは知り得ない、特別な楽しみ方を教えてくれるに違いない。「ゴミのないきれいな森だと言ってもらえることが一番うれしいね」と顔をほころばせる。



日差しがたっぷり入る明るい新館のバンガロー。



木でできた紙アイテムを販売中。



木の家には木製のジャングルジムやブランコも。



森のかけはし。
ふれあいの森赤城と、荒山高原方面を結ぶ。

SUBARUふれあいの森 赤城 赤城森林公園

開園時間
10:00～16:00(12月～3月は 15:00まで)
年末年始(12月28日～1月4日)休業

■宿泊施設
利用期間 7月～9月
●テント(6人用)5張1泊2,160円
※備え付けのテントを利用
●バンガロー(6人用)3棟 1泊5,550円

■バーベキュー施設
利用無料 ※冬期閉鎖(12月1日～3月31日)
10:00～15:00

ご予約・問い合わせ先
あかぎ木の家
前橋市富士見町赤城山1-2
TEL.027-287-8806



※状況により開園時間等、変更の可能性がございますので施設ご利用の際はお問い合わせください。



※バーベキュー場及び第2駐車場トイレは冬期閉鎖となります。



夫婦ともにバイク好き
常連客にはたぐさんの
バイク仲間も

あかぎこ女塾

Lesson6

木のぬくもりに包まれて家庭的なイタリアン。

「ここは山だったのよ」と、切り出してくれた奥様のりつこさん。20年以上前に利平茶屋公園でキャンプしたのがひよんなきっかけとなって、夢だった夫婦二人のレストランを黒保根でオープンすることに。店舗兼住宅であるログハウスは、丸太の組み上げまでを専門業者に頼み、デザインから何から自分たちの手で1年以上かけて作り上げたそう。「楽しかったねぇ」と当時をしみじみと懐かしむ渡部さんご夫婦。大きな窓からは2人で選んだイロハモミジや、シャラ(ナツツバキ)、ヤマボウシなどの、木々の葉が気持ちよさそうにそよぐ。テラス席では爽やかな風を感じながら料理を堪能できる。

地元産の食材を中心に使ったイタリアンが世代を問わずファンを集める。オープンして今年で19年。優しい



出来たてアツアツ料理をいただいた後のお楽しみは、サイフォンで淹れた水出しコーヒー、スフレのようにふわふわの手作りチーズケーキ。

味わいなので、小さな子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで3世代にわたって足を運んでくれるお客様も増えた。「料理によって隠し味に和食ベースの出汁や白味噌などを使っている、それも喜んでもらえる秘訣の一つかもしれませんね」と話すご主人の綱善さん。

一口食べると熱々の焼きカレーのとりこに。2日かけて煮込んだ牛すじカレーをモチモチ食感のお米ミルクシーンとトマトソースが引き立て、さらに超半熟たまごと、3種のチーズがとろけて、絶妙なハーモニーを奏でる。最高に贅沢な一品だ。根利牧場の牛乳をたっぷり使った濃厚なベシャメルソースを存分に味わいたい人にはグラタンやドリアがおすすめ。新緑が芽吹きはじめる春先から季節限定で楽しめるのはたっぷり生トマトが入ったピッツア。ジュシーで程良い酸味が口いっぱいに広がる。ボリュームたっぷりの具をしっかりと受け止める食べ応えのあるピザ生地もこだわりの一つ。ピッツアはテイクアウトもOK。

気さくで明るいオーナーご夫婦の笑顔と、奥様のチャーミングな笑い声。どこか田舎に帰ったようなあたたかさな心がふっと軽くなるレストランだ。

ろぐてい

桐生市黒保根町下田沢2306-5
TEL.0277-96-2616
定休日 月曜・金曜※祝日を除く
11:00～15:00

詳しくはコチラ！



赤城山環境ガイド ボランティア

Slow Walk



文・写真 棚橋 弘

1年で最も華やかになる覚満淵

ビジターセンター向かいのゲートをくぐりミズナラの林を抜けると、駒ヶ岳の南面を映した水面を涼風が渡ってきます。

覚満淵には遊歩道が整備され、起伏も少なく1時間程度で周遊できます。特にお勧めしたいのは水辺の木道沿の眺望と、湿原ならではの植物の観察です。

6月に入るとズミ、ミヤマザクラ、レンゲツツジがほぼ同時に咲き、覚満淵が最も華やかな季節の到来です。それからクサタチバナ、ゼンテイカ、ノイバラ、ヤマオダマキと続きます。

7月になると花の種類は一気に増えます。クルマユリ、マンセンカラマツ、ノハナショウブ、サワギキョウ、オカトラノオ、オトギリソウ、ノハラアザミ、トモエソウ、チダケサシ、クガイソウ、ヨツバヒヨドリ、ワレモコウといった花々が次々に開花します。ぜひ覚満淵花ごよみを片手に散策してみてください。

「覚満淵花ごよみ」が できました

覚満淵では300種類を超える植物の観察ができますが、そのうち80種類を載せた花ごよみができました。この花ごよみは、赤城山の自然保護活動推進協議会の有志が4年間、開花状況調査を行い、その調査結果を纏めたものです。毎年、同協議会で行っている自然観察会の資料として活用するだけでなく、たくさんのお客様が季節毎の花をお楽しみいただけるように、また何度も覚満淵に訪れていただけるように、願いを込めて作成したものです。ビジターセンターで自然保護協力金のご寄附のもと、配布させていただいています。



ズミ(酸実)の蕾は赤く、満開になるとソメイヨシノのように白くなります。



レンゲツツジは水辺の木道沿いに大群落が広がります。



クサタチバナはススキを刈り払ったら見られるようになりました。



ゼンテイカ(禅庭花)はニッコウキスゲの名で知られています。



ノハナショウブは萼片の付け根が黄色く、カキツバタは白、アヤメは編み目模様です。



美しい紫の**サワギキョウ**はトリカブトと並ぶ毒草です。



白虎の尻尾のような**オカトラノオ**。



黄色い花弁が巴の形に並ぶ**トモエソウ**。



輪生の葉が何段にも重なる紫の**クガイソウ**(九蓋草)。九は多い、蓋はふたの意味。



2000kmを旅する蝶アサギマダラ(浅黄斑)が吸蜜する**ヨツバヒヨドリ**。

AKAGIFT 編集後記



やまちゃん

優しさや厳しさ、眺める場所や季節によって
豊かな表情を見せてくれる赤城山
美しい森と静かに波打つ湖畔で過ごす
coffee timeは格別です。

赤城山ツーリズム地元推進協議会

NPO法人 赤城自然塾

観光庁登録 観光地域づくり法人(DMO)

〒371-0231 群馬県前橋市堀越町1115 前橋市大胡支所内

TEL 027-212-2611 FAX 027-212-2691

<https://www.akagi-trip.com>



information

AKAGIFT



AKAGIFTはクチコミサイト「ぐんラボ!」とコラボし、スポットの最新情報やクチコミをチェックできるようになりました! お出かけの際は各QRコードに、ぜひアクセスしてみてくださいね!